



うちのイチ押し!

令和2年度

# 親力アップサポーター養成講座受講者募集

子育て支援の場で  
ファシリテーター  
として活動したい  
あなたへ!

子どものこと・育児のことを、みんながいきいき話し合い、深まるように促す  
「親力アップサポーター」として、子育て支援に関わってみませんか?

- 日時** 9/2(水)、9(水)、18(金)、23(水)、30(水)  
10:00~15:15 全5回 ※9(水)のみ13:30~16:30
- 場所** 総合生涯学習センター 5階 第1研修室(大阪メトロ「梅田」、  
阪急・阪神「大阪梅田」、JR「北新地」「大阪」)
- 対象** 子育て支援に興味があり、全回出席できる人
- 定員** 先着23人(一時保育あり、8/26(水)までに要申込)
- 申込** (志望動機を記入)
- 問合せ** 6345-5004(総合生涯学習センター)

受講料 **無料**

子育てや地域の  
サポーター活動に  
興味のある方

これから  
子育て支援に  
関わりたい方

**大歓迎**

## 親力アップサポーターとは…

子育て中の親の気持ちに寄り添って、子どものこと・育児のことを気軽に情報交換ができる場を提供する“話のかじとり役”です。  
親学習教材や様々な手法を用いたワークショップの体験・実践を通して、子育て支援の場におけるファシリテーションの技法や場づくりのノウハウを学びます。

**親学習教材とは** 大阪府教育委員会が開発した、親と子の関係や子育てについて学びあうための参加型の学習プログラム教材です。

子育て関係のイベントや話し合いの場での活動をめざして、養成講座終了後も、スキルアップ研修や実践研修など様々な研修を受講することができます。

子育て家庭を応援する

## 親力アップサイト

親力アップサイトには、子育てに役立つ情報が  
たくさん載っています!



親力アップサイト

検索

<https://www.city.osaka.lg.jp/kyoiku/page/0000121316.html>

お問い合わせ：大阪市教育委員会事務局生涯学習担当  
TEL 6539-3346 FAX 6532-8520



おおさか

## 歴史探訪

148

大阪の史跡や歴史資料を毎月連続でご紹介します。

たっかわ

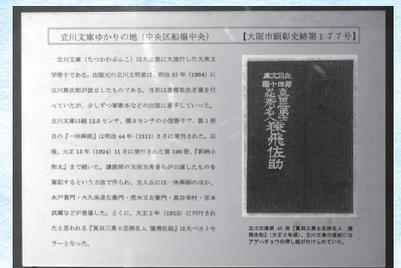
## 立川文庫ゆかりの地 — 一世を風靡した小型文庫本は船場生れ —

今夏は部屋を涼しくして読書、ということもあるかと思いますが、現代の少年漫画雑誌のごとく大正時代の若者を虜にした『立川文庫』の話をして。創刊したのは立川文明堂。創業者は姫路出身の立川熊次郎(1878-1932)で、明治37(1904)年3月に心齋橋筋の唐物町を西に入ったところに開業しました。唐物町は今の船場中央一〜三丁目、中央大通のあるところです。

心齋橋筋の本屋街では新参のこの出版社に、小型文庫本の話を持ち込んだのは、講談師の二代目玉田玉秀齋(ぎょくしゅうさい)という人物で、その妻・敬の連れ子の長男山田阿鉄(おてつ)が手のひらサイズの講談本を発案し、玉秀齋や山田一家が渋る立川を口説き落とすかたちで明治44(1911)年5月に誕生しました。

表紙に3匹のアゲハチョウ(胡蝶)をデザインした『立川文庫』は「こちょう本」と呼ばれ、一冊25銭前後で販売されました。第1編の「一休禅師」はたちまち売り切れ、第2編「水戸黄門」、第3編「大久保彦左衛門」と続きます。執筆陣は敬の実家で、もと廻船問屋だった「日吉屋」の山田家の人々。そして第40編として登場した「猿飛佐助」は百万部が売れるという爆発的なヒットとなり、全国に忍術ブームを巻き起こしました。川端康成・丹羽文雄・幸田文といった著名な作家たちも子どもの頃にはまったということから、いかに痛快な読み物であったかがわかります。

しかし、大正8(1919)年にコレラのため玉秀齋が65歳で没し、文庫は大正13(1924)年刊行の第196編「新納小弥太」をもって終わりました。一世を風靡した立川文明堂も大衆小説の新ジャンルを開いた東京の講談社などの出版社に押され、学習参考書の出版に転じることとなりました。



船場センタービル9号館1階北側通路にある顕彰パネル(中央区船場中央)